

AIAA-JSFC の活動の一層の発展のために

飯田尚志（通信総合研究所理事長）



このたび第2代会長の谷口一郎氏（三菱電機株式会社取締役会長）の後任として第3代会長に指名されました飯田です。よろしくお願い致します。AIAA-JFSC（米国航空宇宙学会・衛星通信フォーラム）は1998年2月にパシフィコ横浜で成功裏に開催されたAIAA第18回衛星通信システム国際会議（International Communications Satellite Systems Conference and Exhibit：ICSSC）の成果を受け、AIAAの日本支部という形で、1999年1月に創設されました。初代会長は関本忠弘氏（日本電気株式会社取締役会長、当時）で、主たる活動としては、機関誌Space Japan Review（SJR）の毎月の発行、展示会の年1回の実施などを行ってきました。特に、SJRの発行は毎月発行するというタイトなものでした。その後、日本語・英語の2か国語の発行が要請され、隔月に発行することと致しました。さらに、2001年4月からはwebによる電子出版に変更して今日に至っています。web出版とすると、ページ数の制限が緩和されるだけでなく、カラーの図を挿入できること、なによりも費用がほとんどかからないことから、購読料を無料とできるメリットがあることが分かりました。これらの活動はJFSCの基本活動ですので、今後も引き続き続けていくことが必要であると思ひますし、皆様からも求められていると思ひます。

我が国はまだ不況から完全に抜けきっていない状態ですし、世界的にはいわゆるITバブルがはじけた後、通信業界は必ずしも嘗ての元気を取り戻しておらず、衛星通信もその煽りを受けて、特に衛星製造会社は受注が減少して苦しい状態だと伺っております。しかし、衛星通信は、災害時の通信とか、テロによる突発事件やイラク戦争に代表される戦時において決定的に重要でありますし、衛星放送は地上をも凌駕する勢いで視聴者を伸ばしていると聞いております。したがって、衛星通信・放送の役目は21世紀になって益々増加していると言えらると思ひます。このような時期に、関係者が集い、自由な情報交換を行っておくことは、決してマイナスではありません。本会がこのようにことに少しでも役立てばと思ひます。

ここで、今後の活動に関して3つの提案をしたいと思ひます。第1は、若い人に我々の活動に大いに参加して頂くための活動を活発にしたいということです。例えば、ICSSCへの積極的な論文投稿やSJRへの記事の投稿の依頼を通じて、JFSCの若い会員を増やすことです。第2にこれからベテランと言われる方々が定年退職されていきますが、是非本会の活動は継続して頂きたいということです。恐らく現役のときより時間は取れると思ひますし、まだまだ健康に恵まれている方も多いたと思ひます。必要なら、AIAA-JFSCの委員会の委員というような名刺を作成して頂いて構わないし、海外取材くらいの旅費も何とかしたいと思ひます。よろしくお願い致します。第3に女性の方も大いに本会の活動に加わって頂きたいと思ひます。たとえば、SJRでは「衛星通信と私」というシリーズコラムで多くの女性に登場頂いております。

す。そこで、このような方々への積極的働きかけも計画してみたらどうかと思います。

以上、お願いも致しましたが、JFSC の活動が益々活発になるよう精力を傾ける所存ですので、よろしくお願い致します。

(2003 年 10 月)